

# 想像力と全身を使って紡ぎだす、 1人ひとりのドラマ表現

表現教育：ドラマ・ダンス 編  
ドラマ・エデュケーション



## ●海城

### ◆正解のない表現を試行錯誤する楽しさ

高い学力と共に一人ひとりの個性を磨く教育で定評のある海城では、自然体験の中でグループで協力して困難を解決し、人間関係を築いていく「プロジェクト・アドベンチャー」という体験学習と共に、約8年前から取り入れているのが「ドラマ・エデュケーション」です。先生方が、様々な演劇やドラマ教育の勉強会やワークショップに参加しながら、独自のドラマ・エデュケーションのプログラムを作り上げてきました。その中心となってきた国語科の次重文博先生に伺いました。

「演じるというと、ハードルが高そうに見えますが、ただ役になって演劇をするのではなく、授業の教材をより深く理解したり、そこから発展させて想像力や表現力を養うために取り入れています。物や場所になってみたり、1枚の写真からストーリーを想像して演じたりと、手法は多岐に渡ります」

例えば、国語では『走れメロス』の音読を聞いて、班ごとにそこから重要だと思われる5つのシーンを自分たちで考え、静止画のように1シーンごと体で表現します。それをお互いに見ながら意見交換をしていくことで、さらに理解が深まっていくそうです。また、物語の中に身を置き、登場人物として感じたり考えたりすることも大事だと話します。

「こうした表現には、絶対的な正解はないと思っています。表現の方法を試行錯誤し、自分たちが伝えたいことと相手に受け取られることの差異を感じることも重要です。人は感じたり、考えたりしていることがそれぞれ違うということを、こうして目に見えて感じ、



国語の授業内で『走れメロス』などを題材に、1シーンを静止画風に表現。誰が何を表すのか、見ている人にそれが伝わっているのか、みんなで意見を交換し合う

その上で新しいものを一緒に作っていけるという創造的な活動ができるのです」

### ◆外部アーティストとのワークショップ

さらに、4、5年前からは中2、中3のコミュニケーション授業として、外部のアーティストを招いてワークショップも行っています。中2では、様々な仕事や経歴を持つ卒業生や地域の方を学校に招き、6、7人の班ごとに1人ずつ話を聞いて、その話を一人称の語り書き起こす「聞き書き」を行っています。また、中3は、修学旅行の経験を元にラップを作って発表したり、戯曲を作ったり、1枚の写真から新たなストーリーを作って演じたりと、外部アーティストの元で表現を広げていきます。

「うまく表現しきれないことがあってもいいと思っています。そうした失敗も経験し、また取り組んでいく中で生徒たちが学んでいくことが多くあります」と次重先生。引き続き発展していく海城のドラマ・エデュケーションは、今後も注目です！



外部のアーティストを招いた中3のコミュニケーション授業の1つ。修学旅行の思い出からラップを作り、ライブ風にみんなの前で発表！



班ごとに1人の方の人生についてじっくり伺う「聞き書き」。この班では、OBの方の戦争体験や人生のお話を聞いて、この後演劇で表現する



最初は恥ずかしがっていても、繰り返すうちに生徒たちはどんどん自分たちで意見を出し合って、表現を広げていく。リラックスしたムードで楽しめる授業風景